

[大会挨拶]

## 第4回情報システム学会・全国大会／研究発表大会

## 会長挨拶

北城 恪太郎

皆さま、こんにちは。情報システム学会の会長を務めている北城でございます。本日は第4回の情報システム学会・全国大会／研究発表会が、こうして多くの方々の参加を得て開催できたということ大変うれしく思っています。昨日から始まりましたが、本日午前中も研究の発表がありました。私も幾つか参加させていただきましたが、大変活発に議論していただいているということで、大変うれしく思っております。また、この後、特別講演、そしてまた研究発表会がありますが、これからの午後の時間も有意義に過ごせればと思っております。

おかげさまで情報システム学会も会員が500名を超えてまいりました。今回のセッションでもいろいろな研究の発表がありました。特に我々の学会は、単に情報技術に関して研究成果を発表するというだけでなく、情報技術がいかに我々の生活の場で活用できるのか。システムを利用する人間の立場でシステムをどのように活用していったらいいのか、そこにどんな課題があるのか。あるいは、社会のシステムとして情報技術をどう活用すべきか。あるいは人材をどう育成すべきかという、システムと人間とのかかわりのところが一番大事だと我々は思っていますが、今回もそういった発表が沢山あったということで、大変うれしく思っています。

Kakutaro Kitashiro

日本IBM最高顧問,

慶應義塾大学特別招聘教授

[大会挨拶] 2009年4月29日受付

© 情報システム学会

産業界の発表もありましたし、また学生の皆さんの発表もありました。いろいろな議論の場で意見交換が行われているということは非常に素晴らしいことだと思います。まだまだ発表だけに、産業界からの発表に対して学生さん、あるいは研究者の方々からいろいろな意見が出る。できれば、それが一緒に研究をしていくと、共同して作業する、あるいはプロジェクトを行うということができれば、さらに我々の研究の質が高まるのではないかと思っております。

現在の経済環境は大変厳しいものです。100年に一度と言われておりますが、よく考えてみれば、これまで各国の経済が順調に発展してきたというのは、ある意味ではアメリカの過剰消費、アメリカの住宅価格が上がることに伴って、価格の上昇を使って消費者がお金を借りて消費をするということで、ある意味ではアメリカの過剰消費で中国もアジアも日本もそしてヨーロッパも潤ってきたということだと思います。しかし、こういった過剰消費は、長くは続きません。そして、今回バブルが崩壊したわけです。しかし、簡単に過剰消費が戻るということも考えられません。そういう意味では、戦後経済が順調に発展してきましたが、大きな変化が起きたと考えるべきだと思います。特にグローバル化の流れがデジタルとネットワークによって世界中に大きな影響を及ぼすと。アメリカで起きていることがヨーロッパにもアジアにも非常に短い時間で影響するという社会になってきました。

そういう意味で、これからの社会を考えると、以前と同じように経済が回復すると思う

べきではなくて、新たな価値を作り出していけないと、日本経済も、あるいは世界も発展できないのだと思います。新たな価値を作り出す、これまでにない価値を作り出すことをイノベーションと言っておりますが、イノベーションを起こすためには経験の違った人たちがいろいろ議論をする中でイノベーションの種が見つかると言われております。そういう意味では産業界もいろいろな会社の人々、あるいは大学関係者、あるいは若い学生さん、いろいろな人たちが議論をします。その中にイノベーションの種が見つかってくると思います。また、そのイノベーションを起こす大きな支えが、急速に進歩する IT 技術とコミュニケーション技術だと思っております。

そういう意味で、イノベーションによって日本が発展していく、あるいは世界が発展していく上では情報技術、あるいは通信技術は非常に大事だと思います。なおかつ、それを人間にとっていかに活用していくかということが、これから問われると思います。そこにこそ、われわれ情報システム学会の存在意義もあると思っております。今回の研究発表を通して、さらに産業界、あるいは大学、あるいは学生さん、若い人たちとの連携が一層深まって、そして我々の活動が日本の発展に貢献できるような意義のある学会として発展できれば、今回の研究発表会も意義がある発表会になるのではないかと考えています。ぜひ、これからの時間、積極的にこの特別講演あるいは研究会に参加していただいて、一層我々の学会の活動が意義のあるものに発展していくことを祈念して、私の挨拶に代えたいと思います。どうもありがとうございました（拍手）。